



ヤマボウシ

25 編はダビデの詩、アルファベットによる詩です。各節の最初に 22 文字のアルファベットが用いられたのでしょうか。詩人は何度も神に「教え」を願い求めています。主よ、あなたの道をわたしに示し／あなたに従う道を教えてください。(25:4) あなたのまことにわたしを導いてください。教えてください。(25:5) 裁きをして貧しい人を導き／主の道を貧しい人に教えてください。(25:9)

詩人が求めているものは 1 連では「恥を受けることのないように」、2 連では「貧しい罪人に憐れみと慈しみを」、3 連では「罪を取り除いてください」と祈っています。詩編の詩人はこれまでも罪を問題にしてきましたが、自らの罪に関しては 知らずに犯した過ち、隠れた罪から／どうかわたしを清めてください (19:13) と祈りました。けれども、25 編では わたしの若いときの罪と背きは思い起こさず／慈しみ深く、御恵みのために／主よ、わたしを御心に留めてください。(25:7) や、御顔を向けて、わたしを憐れんでください。わたしは貧しく、孤独です。悩む心を解き放ち／痛みからわたしを引き出してください。御覧ください、わたしの貧しさと労苦を。どうかわたしの罪を取り除いてください。(25:16) と自らの弱さと罪を思って祈りを捧げています。詩人の祈りは私の祈りと同じです。けれども詩人は最後に あなたに望みをおき、無垢でまっすぐなら／そのことがわたしを守ってくれるでしょう(25:21) と、救われる条件をも付け加えています。それが詩人の受けた教えなのだと思います。「讚美歌21」124「主よ、わが魂は」はジュネーブ詩編歌25 (前出参照) をそのままに、479「喜びは主のうちに」はイタリアのガストロディの舞踊曲を取り入れた讚美歌です。ジャズも入って、晴れやかに、軽やかに、楽しく賛美できます。

参照 <https://www.youtube.com/watch?v=A6phx6qDkxQ>

26 編は、最初に 主よ、あなたの裁きを望みます。わたしは完全な道を歩いてきました(26:1) と裁きの座に立って潔白を訴えます。最後に わたしは完全な道を歩きます(26:22) と言い、聖歌隊と共にわたしは主をたたえます(26:12) と賛美しています。このように自らを完全、潔白と告白できる人は少ないでしょう。ジュネーブ詩編歌26 (前出参照) は、ルターに関する画像と共に、賛美しています。

27 編はダビデの純真さ、勇気、若々しさが漲る信仰の詩です。詩人には差し迫った様々な戦いがあっても、唯一の心からの願いは ひとつのことを主に願い、それだけを求めよう。命のある限り、主の家に宿り／主を仰ぎ望んで喜びを得／その宮で朝を迎えることを(27:4) であり、主の家に宿ることが究極の喜びだと告白しています。主の家は仮庵、幕屋というまだ素朴なものだったでしょう。けれども、そこは、災いの日には詩人を隠してくれる場所、また、敵が群がる時には岩の上に立たせ、敵の上に頭を高く上げさせてくださる場所だと賛美します。その守りがあるからこそ、詩人は 主を待ち望め／雄々しくあれ、心を強くせよ(27:14) と立ち上げられるのでしょうか。「讚美歌21」では関連する讚美歌が多数ありますが、主の家に宿るとの信仰を受け継ぎ、99「主イエスよ、われらの」、211「朝風静かに吹きて」を愛唱したいです。99 は7世紀のラテン語聖歌にイギリスのパーセル (Henry Purcell 1659-1695) の曲をつけて教会を賛美しています。211 はアメリカの《アンクルトムの小屋》で有名なストウ夫人の詩にメンデルスゾーンのピアノ曲を編曲して組み合わせたものです。ジュネーブ詩編歌27(前出参照)は古楽器を用いて演奏されています。

参照 https://www.youtube.com/watch?v=5bC0tgG_bIE

参照 <https://www.youtube.com/watch?v=ZZSY9eP0kJ8>